

## ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

意見提出元	日本放送協会
-------	--------

意見項目	意見内容
(1)ワイヤレスブロードバンドの今後の展望(2015年ごろや2020年ごろのワイヤレスブロードバンドサービスイメージ、システムイメージなど)	<p>昨今の携帯電話の普及とトラヒックの増大により、ワイヤレスブロードバンドと言え次世代携帯電話サービスを指すと理解されがちだが、「電波政策懇談会報告」によれば、ワイヤレスブロードバンドシステムは、ブロードバンドモバイル、デジタル放送、衛星システムが該当するとされており、放送・衛星システムにおいては高度化やイノベーションの実現に向けた展開が見込まれる。</p> <p><b>(ワイヤレスブロードバンドの今後の展望)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ “あたかもその場にいるような臨場感”と“グラビアのような映像”を楽しめるスーパーハイビジョンの開発が進展する。これに伴い放送用伝送路の広帯域利用が進み、2015～2020年ごろには、地上テレビ放送周波数帯のホワイトスペースを活用した地上波によるスーパーハイビジョン伝送の実証実験や、21GHz帯衛星によるスーパーハイビジョンの試験放送が行われることが見込まれる。</li> </ul>
(2)ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題(周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備)	<p>電波は有限希少な国民共有の資産であり、周波数の割り当てにあたっては、経済性や利用頻度だけでなく、それぞれの利用システムの特質も考慮したバランスある配分を行うべきである。</p> <p><b>(ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワイヤレスブロードバンドの利用の進展に伴い拡大する周波数利用の要望を満足するように応えていくには、有限希少な周波数資源にあっては自ずから限界があることから、現行の帯域の中でさらに効率的に伝送するための高効率伝送技術や映像・音声の高効率符号化技術の開発、及びミリ波帯などの新たな周</li> </ul>

	<p>波数開拓の研究開発を促進することが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ ワイヤレスブロードバンドの実現に向けた周波数の確保にあたっては、既に実施しているサービスや事業の安定的な継続に支障をきたすことのないよう、十分な配慮が必要である。</li><li>○ 視聴者に番組を届ける放送用周波数はもとより、ハイビジョン化され高品質で多彩な演出による質の高い番組を制作するために必要な番組中継や素材伝送などの放送業務用無線についても、放送サービスの安定的な継続の観点から現行の周波数確保が必要である。</li></ul>
--	---